

経営状況報告書

令和4年度 事業報告

令和5年度 事業計画

豊橋駐車場 株式会社

I 令和4年度 事業報告

1 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当会計年度における我が国の経済状況は、新型コロナウイルス感染症による停滞期を脱する兆しは見せたものの、ウクライナ情勢や円安の影響により生活必需品など様々な物価が高騰したため、消費者の生活は相変わらず厳しい状況が続くこととなりました。

こうした状況下、当社は、近隣商業施設のemCAMPUS及びまちなか図書館の利用者並びにまちなかで再開される様々なイベントに参加する多くの人々に、安心して利用される駐車場として機能することで業績の回復を目指しました。

また、当会計年度における経営成績につきましては、売上高では103百万円、前年度比108%を計上する結果となりました。要因としては、豊橋まつり等のまちなか催事が再開され、にぎわいが戻り始めたことや、前年度後半に開館したまちなか図書館の利用者による安定した時間貸台数の確保ができたこと等が挙げられます。その一方で、従来から当社の強みであった定期券の販売件数については、法人顧客先の労働形態の変化やガソリン代の高騰などにより通勤者の利用が減少したため年間を通して低調な売上げで推移しました。これについては、今後の課題として認識し、新たなメニュー等を利用者へ提案していく必要があると考えます。

販売費及び一般管理費については、駐車場施設内の老朽化対策としての継続的な修繕の実施、電力費の高騰、最低賃金の上昇などへの対応のため増加となることが予想されましたが、日頃からの経費の節減もあり107百万円、前年度比99%に縮小することができました。

結果として、営業利益が4.2百万円の損失となり、営業外収益1.5百万円、営業外費用の借入金金利5.3百万円を差し引き、経常利益は8百万円の損失、そして、法人税及び事業税を支払い、最終的に当期純利益は、9百万円の損失となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度と比較し損失額を14百万円縮小できたことを考慮すると、徐々にではありますが着実に回復傾向にあると考えます。

(2) 会社に対処すべき課題

ア 当社は、豊橋市と地元企業等により設立された第三セクターの駐車場経営会社であり、中心市街地の駐車場及びまちなかのにぎわい創出のため、豊橋市をはじめ、地元企業等との連携を図りながら諸政策を展開してまいります。

イ 当社が経営するパーク500は、近年の中心市街地における商業施設の衰退に加え、令和2年からの新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少していましたが、今年度に入り当該感染症に対応する新しい社会的仕組みの確立と経営活動の活性化が進むにつれて、当社周辺のまちなかのにぎわいは、コロナ禍以前の人出を取り戻しつつあります。

なかでも、令和3年11月に開館したemCAMPUS及びまちなか図書館には、安定した集客力があり、その提携駐車場としての役割を持つ当社駐車場は、利用者の利便性と安全性の向上に努めるとともに、まちなかの公共駐車場としての使命を果たしていくことで経営の健全化を目指してまいります。

(3) 財産及び損益の状況の推移

	令和2年度 (第34期)	令和3年度 (第35期)	令和4年度 (第36期)
	令和2年4月1日から 令和3年3月31日まで	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで	令和4年4月1日から 令和5年3月31日まで
売上高	96,015千円	95,597千円	103,338千円
経常利益	△19,888千円	△15,735千円	△8,079千円
当期純利益	△23,134千円	△16,712千円	△9,056千円
1株当たり当期純利益	△20,169円	△14,570円	△7,895円
総資産	1,509,175千円	1,504,187千円	1,465,900千円
純資産	1,127,746千円	1,111,033千円	1,101,977千円

(注) 売上高は、全て消費税を除いて計上

(4) 主要な事業内容（令和5年3月31日現在）

当社は、駐車場法にのっとり、以下のアからウまでによって地下自動車駐車場の経営を行っています。

ア 駐車時間に応じて1車両ごとに駐車料金を徴収する。

イ 定期駐車券（全日制定期券・夜間定期券・24時間入出庫対応定期券）を駐車場の利用状況に応じて販売する（駐車位置は、指定しない。）。

ウ 料金設定は、内税方式とする。

(5) 従業員の状況（令和5年3月31日現在）

従業員数	前年度末比増減
8名	2名減

(6) 借入先（令和5年3月31日現在）

借入先	借入金残高
豊橋信用金庫	325,000千円
豊橋商工信用組合	30,000千円
合計	355,000千円

II 令和4年度 決算報告
貸借対照表
(令和5年3月31日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	51,868,545	流 動 負 債	18,922,766
現 金 預 金	48,775,394	1年内返済予定の長期借入金	10,000,000
売 掛 金	1,007,136	未 払 費 用	1,367,191
貯 蔵 品	8,581	預 り 金	89,505
前 払 費 用	1,536,434	前 受 収 益	139,150
未 収 入 金	541,000	未 払 消 費 税	6,349,920
		未 払 法 人 税 等	977,000
固 定 資 産	1,414,031,942	固 定 負 債	345,000,000
有 形 固 定 資 産	1,413,971,942	長 期 借 入 金	345,000,000
建 物	1,413,388,638		
構 築 物	3	負 債 合 計	363,922,766
什 器 備 品	583,301		
投資その他の資産	60,000	(純 資 産 の 部)	
出 資 金	60,000	株 主 資 本	1,101,977,721
		資 本 金	100,000,000
		そ の 他 資 本 剰 余 金	1,047,000,000
		利 益 剰 余 金	△45,022,279
		繰 越 剰 余 金	△35,966,009
		当 期 純 利 益	△9,056,270
		純 資 産 合 計	1,101,977,721
資 産 合 計	1,465,900,487	負 債 及 び 純 資 産 合 計	1,465,900,487

損益計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額	
売上高		103,338,915
売上総利益		103,338,915
販売費及び一般管理費		107,525,449
給料賃金	24,019,770	
賞与	3,292,250	
諸手当	1,009,000	
退職金	48,000	
法定福利費	2,866,039	
福利厚生費	472,683	
支払手数料	233,555	
広告宣伝費	205,806	
消耗品費	1,857,879	
会議費	88,855	
事務用品費	265,623	
水道光熱費	62,804	
電力費	9,959,513	
旅費交通費	2,418	
通信費	388,130	
租税公課	8,122,645	
修繕費	3,135,009	
保守管理料	3,296,516	
保険料	766,047	
貸借料	3,583,600	
リース料	3,360,120	
減価償却費	37,055,367	
支払管理料	1,855,880	
雑費	1,577,940	
営業利益		△4,186,534
営業外収益		1,454,055
受取利息及び受取配当金	5,818	
雑収入	1,448,237	
営業外費用		5,346,791
支払利息	5,346,791	
経常利益		△8,079,270
税引前当期純利益		△8,079,270
法人税、住民税及び事業税		977,000
当期純利益		△9,056,270

株主資本等変動計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：円)

	株 主 資 本				純 資 産 合 計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	
		その他資本剰余金	繰越利益剰余金		
前期末残高	100,000,000	1,047,000,000	△35,966,009	1,111,033,991	1,111,033,991
当期変動額	0	0	0	0	0
当期純利益	0	0	△9,056,270	△9,056,270	△9,056,270
当期末残高	100,000,000	1,047,000,000	△45,022,279	1,101,977,721	1,101,977,721

Ⅲ 令和5年度 事業計画

1 事業計画の概要

当会計年度については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことにより、当社駐車場周辺の駅前大通地区で集客催事の開催が多く予定されることとなりました。これにより、まちなかににぎわいが戻り、人出が増えることが期待されます。このような中で、当社駐車場は、交通インフラである公共的駐車場として、この地区に車で訪れる人々に利用していただくことでその役割を果たし、それが当社業績の回復につながると考えます。そのため、駐車場の安全性及び利便性の向上には、常に注力し、清潔で快適な環境づくりに努めてまいります。

また、お客様を待つだけの姿勢ではなく、積極的に駐車場利用を促す発信をしていきたいと考えます。まずは、近隣商店街組合や、当社と同じく第三セクターの立場にある株式会社まちなか活性化センターと協力し、駐車場利用者について、その年齢層や1台当たりの人数と構成、利用率の高い曜日や時間帯、その理由（周辺で催された催事内容）などを分析し、そこから得た情報を活かした利用率向上策を実施し、当社駐車場を起点としたまちなかの利用方法のモデルプラン等の提案を進めていくことで、当社がまちなかへの集客の一助となることができ得ると考えます。それにより当該地区の商店街や施設の増販増客につながり、最終的には当社の利益も安定するものと予想します。

当社は、第三セクターの駐車場であるため、駅周辺地区の民間駐車場と公共機関との橋渡し役を務める立場にあると考えます。したがって、当社駐車場だけではなく他の駐車場にも協力を仰ぎ、地域としての活性化に皆で協力し、知恵を出し合い、駅周辺地区に多くの人々を呼び込み、にぎわいを創出したいと思います。また、それによって交通インフラである当社の存在意義も高まると考えます。

公民の駐車場と地域商業・公共施設と一緒に新しい仕組みを作るのは容易なことではありませんが、長期的な視点で考え、営利目的だけではなく地域発展のため、さらには、豊橋市民のためを第一に考え、まちなかにおける第三セクターとしての当社の役割を全うしていく所存であります。

IV 令和5年度 収支予算

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額	
売 上 高		120,000,000
料 金 収 入	119,500,000	
賃 貸 料 収 入	500,000	
売 上 総 利 益		120,000,000
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		112,000,000
営 業 利 益		8,000,000
営 業 外 収 益		1,500,000
営 業 外 費 用		5,300,000
経 常 利 益		4,200,000
税 引 前 当 期 純 利 益		4,200,000
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		2,500,000
当 期 純 利 益		1,700,000